

特集 <ハイテク推進セミナー>

ハイテク推進セミナー「環境で築く未来の都市構想～」を振り返って



<大阪大学大学院 工学研究科 地球総合工学専攻教授 山中俊夫>

人類の歴史上、環境という言葉が今ほど甚に溢れている時代はないのではないだろうか。環境とは、言うまでもなく、何かを取り巻くものの総称であるが、いま最も重要な対象は地球であり、我々の子孫であろう。このごろ、人間とはかくも想像力が乏しい生き物なのかと思うことが多い。資源枯渇の問題も、地球温暖化の問題も、世界全体を巻き込む規制や大災害でもなければ、我々は自身の問題と捉えることができず、社会は何も動かない。その意味で、地球温暖化問題や震災を契機とする電力危機の問題は、産業や様々な社会構造を変革するチャンスと言うことができる。

都市も例外ではないと思う。欧米の先進国への海外旅行から帰国したとき、車窓から見える日本の都市の街並みを先進諸国並に美しいと思える日本人が果たして何人いるだろうか。産業振興ばかりを優先し、都市景観や街並みを二の次にしてきた結果だということは明らかであるが、この日本の都市を、日本ならではの文化を大切にしながら再生することはできないのか。いくつかの方策があると思うが、そのためには、先端技術の力、経済の力、知の力が不可欠ではないかと思う。先端技術が経済を活性化し、大きな内需を生むと共に、地球の環境を守り、子孫へ美しい国を引き渡す。街や建物での安全と安

心が保証され、美しく住みやすい都市が再生する・・・そんな夢の様な話も現実的な可能性がある。しかしそれは決して無機質な機械の街であってはならず、ヒートアイランド現象の起きない緑に溢れる街であり、幅広い世代が生き生きと生活できるコミュニティの街でなければならない。経済と技術だけでは作れない街であり、そこに我々の知力が試されるだろう。ここでこそ、日本人の腕の見せ所であり、その結果世界に輸出できる技術と知恵を生み出すことができれば、日本は必ず再生すると信じたい。何もお金持ちになることが目的ではない筈だ。生きる目的を失ってはならない筈である。私は、街を大切にすることが、人を幸せにすることだと信じたい。

しっかりした戦略などという言葉は政治家に任せとけば良い。しっかりなどしなくてもいい。戦略などなくてもいい。我々に必要なのは、日本の街を再生し、子孫に美しい街を残すという意志なのではないか。今回のセミナーを通して、そんなことを考えさせられた。

今回、それぞれの分野で活躍される6人の方々にお忙しいなか、ご講演をしていただくことができた。末筆ではあるが、この場をお借りして、改めて深謝申し上げます。